

伊勢湾地区藻場造成事業調査

広瀬和久

目的

藻場は水産生物の産卵場や幼稚魚の生育場であり、また水質浄化機能も有しており、浅海域では重要かつ多面的な機能を有している。しかし伊勢湾のアマモ場面積は年々減少し、昭和30年当時の10,400haに対して平成13年は38ha（三重県側）となり大きく減少している。

そこで、伊勢湾内のアマモ場の保全と回復、水質浄化能力の向上、水産資源の維持増大、生産の安定を図ることを目的として、アマモ種子の採取、追熟、選別及び保存を行い、アマモ場造成現地実証試験へ種子を供給した。

方法

平成15年5月30日に松阪市松名瀬で、また6月3日に二見町松下池の浦でアマモの花穂を採取し、水産研究部に持ち帰り流水槽内で曝気しながら追熟処理を行った。（図1）約1ヶ月後の6月26日に、水槽底面に沈下したアマモ種子を収集・洗浄した後、飽和食塩水を用いて比重の大きい種子を選別した。

選別した種子は、冷蔵庫（5℃）内に設置した海水容器（容量30ℓ、ポリエチレン製）に入れ、2～4週間に1度ずつ海水を交換しながら保存した。

さらに将来の大規模アマモ場造成のため、大量の種子の追熟を効率的に処理する方法として、現地海域での追熟処理法について検討した。採取したアマモ花穂を入れるために容器として、網目1.5mmのナイロン布を用いて、80×80×80cmの立方形の袋（上下に80×80cmの正方形

ステンレス枠を縫い込む）を作成した。（図2）6月4日に英虞湾の現地（阿児町立神立石浦）でアマモ花穂を採取し、作成した10袋の中に入れ湾内の真珠いかだに結び付け、追熟処理を行った。約1ヶ月後、袋の底面に沈下している種子を収集・洗浄した後、飽和食塩水で選別した。（図3）選別した種子は、上記と同じ冷蔵庫内の海水容器に入れて保存した。

結果と考察

水槽内でアマモ花穂を追熟・洗浄・選別した結果、合計で約10万粒のアマモ種子が得られた。アマモ種子は、気温の高い夏季の間冷蔵庫内で保存した後、三重県伊勢湾地区藻場造成事業として二見町沖（夫婦岩から池の浦）及び津市沖（御殿場海岸）で実施しているアマモ場造成試験に供試した。

また大規模アマモ場造成のため、大量の種子の追熟方法として現地海域での追熟処理法を検討した結果、合計で約20万粒のアマモ種子が得られた。この結果、将来大規模アマモ場造成するため多量のアマモ種子が必要になった場合でも、今回の現地でのアマモ種子追熟方法により、対応できるものと考えられる。

関連報文

三重県：平成12、13、14年度伊勢湾地区藻場造成事業調査委託業務報告書



図1 水槽での種子追熟処理



図2 現地海域での種子追熟処理



図3 追熟後のアマモ種子